

# カンボジア通信

カンボジア教育支援基金 (KEAF-Japan) 会報

2018年9月

88号



〒162-8433 東京都新宿区市谷本村町10-5

JICA地球ひろば気付

カンボジア教育支援基金事務局

info@keaf-japan.com

http://keaf-japan.com

## KEAF 奨学金で母校の先生に

教育熱心だった校長の遺児  
担任はクメール語とフランス語

池内 秀樹

カンボジア訪問の3日目のこと、プラティアート中学の教員室で面接を実施していると、若い女性の先生が授業を終えて入ってきました。ニーム・チャンダラさんという新任教員でした(右の写真。後方は岡宮さん)。面接を終えるのを待ちかねたようにチャンダラさんと話をしましたが、彼女は2012年までの3年間、進学したコンポントゥラバイ高校でKEAFの奨学金を受けていて、プノンペンの大学に進学後、母校の先生の道を選んだとのことでした。「KEAFの奨学金はものすごく役に立ちました。先生になれたのですもの」とにこやかに話しました。



クメール語とフランス語を3年生(つまり12年生)3クラスに教えているそうです。「フランス語とは最近では珍しいですね」と聞くと、母校、プラティアート中学で2年生のときに履修科目だったといえます。家族は母と3人姉妹で、末っ子。姉2人はすでに独立しています。父は実はこのプラティアート中学の名物校長だったルーンさん。ルーン校長は2年前の8月に亡くなりました。

KEAF奨学生から先生になったのは、国境のバットバン州のバットバン高校で生物・化学を教えるレン・サイさん、KEAF前身であるCEAF創設の仲間、コーン・ボーンさんが支援・運営する「カンボジア日本友好学園」でクメール語を教えるリム・セーラさんがおり、チャンダラさんは3人目。母校の教員になるという夢を叶えることができたのは、彼女が初めてです。

## 支援要望はいつもどっさり

### 故ルーン校長の思い出

プラティアート中学はCEAF時代に建設・寄贈した5校のうち



の2番目で、1994年開校。KEAFとしてはじめて同中学を訪問した時、ルーン校長から教科書、辞書、副読本、歴史書教養書、理科実験用具、さらにはパソ

コン、プリンター、カメラ・・・あれもこれも欲しいという要望をうけて驚いた思い出があります。その後も要望はいつもいっぱい、奨学生の数も増やして欲しいと度々迫られました。教員室にも電気はなく、バッテリーは高くつくので校庭に太陽光パネルを設置するというアイディアマンでもありました。

2016年秋に念願の高校が隣接地に開校、ルーンさんはそのまま校長になると決まっていたのですが、そのときを待たずに亡くなりました。残念だったと思います。でも娘さんが志を引き継いでくれるでしょう。写真は同年3月、完成近い新校舎の前で撮影。右からルーン校長、筆者、副校長(金子)。

## 19年度奨学生は156人

残念ー「出稼ぎ退学」が5人

池内 秀樹

例年の通り、今秋(11月)、新たに高校に進学する中学3年生(カンボジアでは小中高一貫の名称を用いているので、9年生という。高校1年生になると10年生と呼ぶ)や、すでにKEAFの奨学金をもらっている高校1,2年生(10,11年生。11月に11,12年生に進級の予定)との面接を主な目的として、7月1日から9日まで、事務局の岡宮喜雄さん、佐藤三鈴さんと3人でKEAFが支援するプレイベン、スパイリエン両州の4高校、7中学校、3小学校、1養護施設、1地域保健センターを回ってきました。

### 奨学生数：高校142、教員養成所12、大学2

ひと頃、高校奨学生は160人という時期もありましたが、KEAFの資金難などを背景に少しずつ減り、19年度(2018年11月～2019年8月)は、奨学金支給対象は10年生50人、11年生50人、12年生47人の147人を予定しました。しかし11年生1人、12年生4人の計5人が退学していましたので、今年度は計142人が高校奨学生になります。

教員養成所学生の奨学生は12人。新規募集を打ちきった大学生奨学生もなお2人が在学中です。2人にはプノンペンホテルで奨学金を渡しました。



写真：校庭の涼しい木陰で奨学生の面接。左手前は質問をする佐藤さん。プレイトープ中学で。

数年前には出稼ぎなどでの退学がかなり多かったのですが、ことしはやや減ったという印象です。しかし、貧しくても向学心の旺盛だった生徒が退学せざるを得ないという状況が今もなお続いているのは、とても残念です。いずれも家庭が貧しく、本人がプノンペンなどへ出稼ぎに行かなければならないという事情があった、というのが学校側の説明でした。

### 教員養成制度が変更か

KEAFは大学生への奨学金支給(年額500ドル)が来年度には終了するため、教員養成所に通う学生への奨学金支給(年額\$100)の人数枠を増やす方針ですが、今回の訪問で教員資格を取得する制度が近く変更になるという情報があることが分かり、対応を迫られる事態になるかもしれません。



写真：コンボントウラバイ高校教員室玄関先のベンチで奨学生面接。右の質問者は岡宮さん。

小中高校の先生になるための現行の制度は、2年間の教員養成所での勉強のあと、卒業したら、それぞれのレベルでの実習を1年などの一定期間、修めれば、先生になることができます。

新しい制度だと、すべての教員資格は、小中高の教育レベルに関わらず大学を卒業してからでなければだめということなので、これが本当に実施されるのか、実施はいつからなのかなど、より正確な情報を得なければならぬと考えています。

### 現地支援活動、HP動画で見られます

カンボジア現地の支援活動の様子が、7月に行った次年奨学生の選考面接からホームページの動画でみることができるようになりました。この頁の2枚の写真はその面接のなかの2コマですが、音声入りの動画で見ると現地の状況がより生々しく感じ取っていただけたと思います。

KEAF活動のPR強化のためにホームページの充実に取り組んできて、現地活動の写真つき報告を欠かさず掲載し、KEAFの現体制が本格的に活動に入った2008年9月発行の会報「カンボジア通信」51号以降のバックナンバーの掲載を終えています。

ホームページ・アドレスは<http://keaf-japan.com>。インターネットでもカンボジア教育支援基金、またはKEAF-JAPANでつながります。各頁に「KEAFとは」「沿革」「活動報告」「カンボジア通信」などの案内が付いています。動画は1頁で見られるはずですが、だめなら「活動報告」をクリックしてください。

## 目をキラキラさせて希望を語った

### 家事を受け持ち、世相にも敏感

佐藤 三鈴

昨年 10 月に奨学金を届けに行ってから 9 か月、今度は 11 月に高校生になり、奨学金を支給する 9 年生 50 名との面接及び既に奨学金を支給している 10 年生、11 年生のその後の状況などについて子供たちと面談してまいりました。奨学生総勢は 147 名でしたが 5 名の退学生が出たので、面談したのは 142 名でした。

また支援を続けている幼稚園児から高校生までの養護施設「アスペカ」に支援物資を届けたりして訪問校は 12 校になりました。行程の詳しい報告は別途あると思いますので私は今回カンボジア訪問で感じたことを述べさせていただきます。

#### 先生、医者、エンジニア・・・夢はいろいろ

生徒の両親はほとんどが農業をされており、子供たちは家事を受け持っていて、現在貴女は何に興味がありますかとの私の質問に家事をどうこなすかだとの返事を聞き、私も終戦後母が働いていたのでお風呂を焚いたり、夕食の用意をしたり、いっばしの主婦の仕事をこなしていたことを懐かしく思い出しておりました。

生徒は目をキラキラさせて、将来はクメール語の先生になりたい、またお医者さんになりたいという子供も多く、頼もしく思いました。また中には建築のエンジニアになりたいという男子生徒もチラホラいて、なぜと思いましたが、今建設ラッシュで建築現場の監督は高い給料を稼げるからだと言った通訳のナットさんから聞いて、子供たちも世相に敏感に反応していることを実感しました。

#### 風船 30 個、たちまち撃沈

前回大歓迎を受け私を KEAF の支援は継続しなければとの思いにさせた養護施設アスペカにも、私の友

人など多くの方々から提供して頂いたぬいぐるみ、ケン玉、折り紙、紙風船等を抱えて訪ねて行ったら、子供たちはみんな私のことを覚えていてくれ大歓迎を受けました。

紙風船を突いて見せたらみんな目の色を変えてバンバン打ち始め、そのうちバレーボールの攻撃よろしく大きな音をさせて爆発させてゆき、ついに持って行った 30 個以上の風船は全部撃沈してしまいましたが、子供たちが夢中で叩き合っていて、はしゃいでいる姿に本当に良かったと、いろいろ支援してくれた人たちにこの映像を見せなければとの思いを強くしました。

また年長組の女子は一段ときれいになって私を驚かせてくれました。



#### 格差一でも地方も変化

プノンペンの街は新しいビルの建設が多くみられ、これも多くは中国の資本によるものと聞かされ彼らの海外進出のエネルギーは凄まじく奥地との格差が一段と広がった様に思いました。

ただ驚いたことがありました。前回泊まったネットルーンのホテルの部屋にあったテレビの画面は何時も雨が降っているようで、一日に数回停電、時々叩くと映像がはっきりするなど、まともに見ることが出来ませんでした。

今回は同じホテルで薄型の TV が壁にかかっており、停電は 7 泊して一度あ

りましたが、60 チャンネル以上あるケーブル TV でワールドカップやウインブルドンテニスも LIVE で見る事が出来ました。

また 7 月 29 日のカンボジアの総選挙を前にしてフン・セン首相の与党の選挙看板はそこら中にあり、奥地のガタガタ道にも立っているけど、野党の看板はどこにも無く、ここにも強者の政治が行われているのであろうかと推察されました。

これからのカンボジアが平和で子供たちが夢を持つことが出来る国であるよう祈るばかりでした。

(写真：おみやげのぬいぐるみや風船で大喜びしてくれた子どもたち。何れもプレイヴェン市のアスペカ養護施設で)



# ありがとうございました (2018年6月01日～2018年8月31日)

年会費、寄付金、奨学金をお振込頂きました方々に心からお礼申し上げます (敬称略させていただきます)

(東京) (神奈川) (埼玉) (千葉) (東京) (東京)  
(神奈川) (東京) (東京) (神奈川) (神奈川)  
(東京) (東京) (東京) (東京) (東京) (神奈川)  
(東京) (東京) (神奈川) (東京) (東京) (群馬) (大阪)  
(東京) (大阪) (埼玉) (東京) (東京)  
(千葉) (神奈川) (東京) (神奈川)

※お名前は個人情報なので伏せて掲載しています。 ※写真つき奨学生紹介の4～7頁は個人情報保護のため省略

## ◎物品支援ありがとうございます

さま (神奈川) : 鉛筆 30 本、消しゴムなど。

## 1 党独裁下の総選挙

### 上下両院とも与党が議席独占

今回の訪問中に、5年ごとに行われるカンボジア総選挙(7月29日)の告示(同月8日)がありました。選挙の様子を垣間見る機会とも思ったのですが、昨秋、最大野党、救国党のケム・ソカ代表の逮捕に続いて党自体が最高裁から解散を命じられ、野党勢力不在のなかでの与党・人民党の「1党選挙」を見る結果となりました。

首都からベトナム国境へ向かう国道1号線を通り、KEAFの活動拠点ネットワークのあるプレイベン州、さらにその先のスバイリエン州だけを見たのですが、その1号線沿いの町を通り過ぎるたびに与党・人民党のフン・



セン議長(首相)とヘン・サムリン名誉議長が並ぶポスターがほぼ100～200メートルおきに延々と続く場所がいくつもあり、野党系の選挙ポスターはまず見かけないという状態でした。

かつて国連暫定行政機構の下で行われた1993年の総選挙で人民党をしのぎ、第1党となったフンシンペック党は前回の総選挙では全議席を失い、事実上、人民党との対抗政治組織としての影響力を失っていますが、党首のラナリット殿下の肖像を掲げた色褪せたポスターを時たま見かけることができました。

今回の選挙でも立候補者を立てていますが、同党については「今与党の公正選挙のみせかけを担うお飾り」という厳しい声が聞かれました。また州都プレイベンに行く途中の国道11号線脇の村の入り口には、人民党の看板と並んで「Our Motherland Party」と英

語の党名を併記した看板を一つだけ、見かけました(中ほどの写真)。地元では、こんな名前の政党なんて聞いたことがないし、党首がだれなのかも知らないという。「人民党の1党独裁選挙」ではないことを示そうとする、にわか作りの組織ではないかということでした。

救国党の元党首、サム・レンシー氏は国外から選挙ボイコットを訴えていたので、与党人民党は高い投票率をあげることで、選挙の公正さを示すことができると、地方組織を総動員して投票に行くよう訴えました。なかには小学生を集めた集会で、親の投票を呼びかけさせるという動きさえあった、といいます。

結局、選挙管理委員会は総選挙当日、投票率は前回は10%超え回る82.17%だったと発表し、翌日には人民党が党の独自集計の暫定結果で定数125の下院議員すべてが同党の候補者が当選するとの見通しを示しました。2月の上院議員選挙でも人民党が全議席を占めているので、野党勢力が全くいない異常な状況が出現することになります。

前回総選挙で44%強の支持を集めた野党勢力の民意はどこにいったのか、大きな疑問を感じざるを得ませんでした(池内 秀樹)。

## 自転車3人乗りも

カンボジアの子どもたちの通学の足は自転車が主力です。日本からの中古車の支援がありたがられています。学校の数がまだ不足しているので、高校生の中には自宅から10キロもの道を自転車で通う生徒も



珍しくありません。授業を終えた小学低学年の女の子が3人乗りで家に帰って行ったのにはびっくりしました(ソンボン小学校で)。